

とができるようになることを促す活動を指しています)。では、継続的に学習が行われ、高パフォーマンスを達成できる職場を目指すには何をしたら良いのでしょうか。答えは「チームング」です。チームングとは、変化する状況に合わせ最適なチームワークを構築することで、新たなアイデアを生み、答えを探し、問題を解決するために人々を団結させる働き方を指しています。

4) 医療安全から患者安全へ

ここでは病院の学習力とパフォーマンスを高める作戦を説明します。これには心理的安全性を高めるリーダーシップが重要です。責めない文化を作り、心理的安全性を高め、チームングを推進することで、患者さんのために安全で質の高い医療を届けることにつながります。

こういうことを実践するためには、「医療安全」イコール「事故防止」、「事故対策」、「事故対応」という考えを改める必要があります。講演では、職員がミスや事故ではなくて、「患者さんのため

に」という共通の目標を持って、自分たちの仕事をより良くすることを考えて欲しいというメッセージがありました。そのために「医療安全」を「患者安全」に変えて、意識を変えましょう、より良い仕事をするために心理的安全性を高めてチームングができるようになりましょう、というお誘いだったと思います。

以上が山口（中上）悦子先生の講演内容となります。今回の講演は出席された全ての医療従事者にとって、大変有意義な内容であったと推察しています。山口先生にはこの場をお借りして厚くお礼申し上げますとともに、今後の山口先生のご活躍を祈念いたします。

【印象記：徳山医師会 原田 有彦】

午後からは、市民公開講座として「幸田浩子ソプラノリサイタル」が行われ、多数の参加があった。

閑話求題

運動会のお弁当、いる？ いらない？
宇部市 小田 聖子

先日、子供たちの小学校で運動会がありました。昨年からは6学年合同の運動会で、2学年ずつ行われていたコロナ禍と比べると活気もあるし、大変盛り上がりました。わが家は2年生、4年生、6年生と子供がいるので、半分以上の競技に出場していて、カメラを持って走り回りました。しかし、今年も午前中のみでお弁当はなし。楽しんで、だけどやっぱり寂しい。

私はお弁当作りが得意なわけではないので、作るとなると大変なのですが、その大変さも含めて、もう少し運動会を堪能したい。運動会は小学校の行事の中では大きなイベントの一つでした。敷物も禁止、立ち見で終わってしまう運動会は楽しんでいますが、なんともあっけない。令和の運動会はお弁当なしが主流になるのでしょうか。個人的には、運動場で食べるお弁当込みのにぎやかな運動会が戻ってくる日が来ることを願っています。